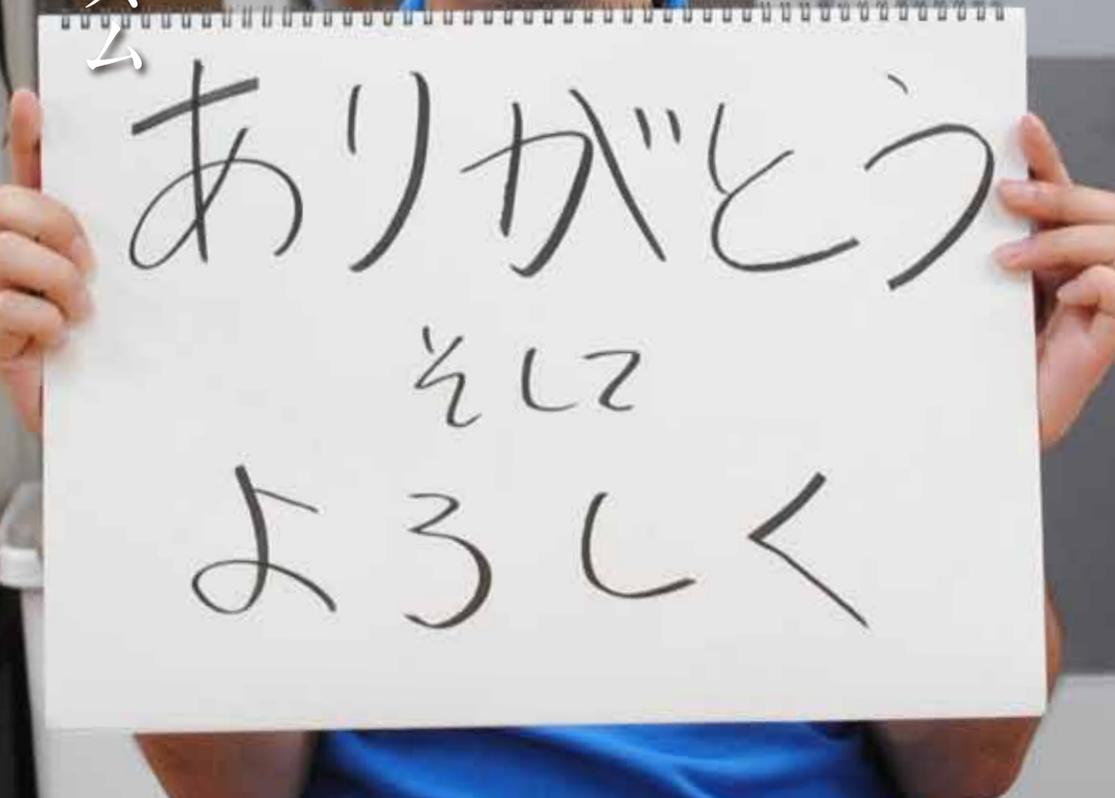


小矢部市地域おこし協力隊

# 青柳 聡

## グリーン・ツーリズム



TAKE FREE  
Vol.123

おやベローカルかわら版

発行：ELABO（イーラボ）  
印刷：ヤマシナ印刷株式会社



小矢部市地域おこし協力隊、青柳聡さん。「大学では、まちづくりの勉強をしていました。前職でも田舎暮らしの相談を受けていて、その経験を活かす機会としてやっています。」茨城県出身で、もともと農村風景の中で育ちました。何より小矢部は良い人が多く、なんとかがやいています。」

地域おこし協力隊とは、都市住民など地域外の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図るものです。

小矢部で、お米、赤かぶ、里芋、ヤーコンなどの特産品の生産に旅行者が楽しく関わってもらうグリーン・ツーリズムの動きが始まった。

グリーン・ツーリズムとは、農山漁村地域で自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の旅。滞在期間は、日帰りから、長期又は定期的な場合まで様々だ。

「私は、外部アドバイザーとして関わるつもりです。」

「地域づくりは、住民が主体でないと続きません。」

大切なのは、ひとつの成功ではなく、継続して地域のものになるか、ならないか。

「今は地域おこし協力隊という立場で、住民の想いをカタチにしていくことを目指しています。」

小矢部市にとって、誰が主体的に動くのか。それは行政の中ではなく、住民から自発的に始まることが望ましい。そういう主体となる「芽」がどこに育っているのか？それを見つける作業も必要だ。

青柳さんの夢は、定住者を促進するための窓口となるNPO法人を立ち上げること。

「まず外に向けての情報発信やグリーン・ツーリズムなどの交流を通じて、小矢部のファンを獲得していきたい。」

一人でも多くの方に、小矢部市の存在を知ってもらおう。そのためのプログラム作りやコー

ディネート。定住希望者からの相談受けや空き家紹介などを行う予定だ。

グリーン・ツーリズムから定住者を増やすというのは、ターゲットが近いようで違う。また、小矢部市の将来にとって、首都圏からの集客が大切なのか、近県からの集客が大切なのか、それとも海外なのか。それとも、何処からではなく、小矢部から外に出た方へのUターンの促進が必要なのか？具体的なビジョンと、旅行者と定住者を繋ぐキーワードは何か？

「自分の住んでいる場所の魅力をよくそ者との交流を通じて再発見してもらうことも必要です。」

また、自分の余暇とスキルを活かした小商いで、副収入を得ることができるとも必要も考えている。

「なぜ、そんなNPO法人を目指すのか」と思ったかという、大学生の頃、中越震災で被災し全村避難した旧山古志村（現長岡市）の復興に関わった時です。」

住民のふるさとに帰りたいという想い。戻った以上、ここを維持していくことが使命だという覚悟。

「そんな住民の気持ちに感動したことがきっかけです。」  
「人はどこでも生きていけるが、他に行くところがないといったマイナスの考えではなく、ここが良いから住んでいくというプラスの考えに変えていきたい。」  
過疎高齢化、人口減少の今だからこそ、自分が暮らしたい場所で生きていくことができるはず。  
「私は、そういった意志をもって住み続けたいという方を応援したいし、自分自身も小矢部に住み続けたい。」  
「意志や覚悟と言うと少し重いです。単純に、好きだから住んでいるという人を増やしていきたいです。」

### ■青柳 聡

1985年1月22日生  
大の日本酒好きで、休日にはバイクに乗って道の駅などを巡り美味しいお酒とつまみを探し回っている。